

令和6年度 学校評価結果（北海道美深高等養護学校）

1 教職員評価

(1) 実施日

令和6年11月1日～令和6年11月25日

(2) 対象者

教職員 79名（提出 78名 / 提出率 98.37%）

(3) 結果

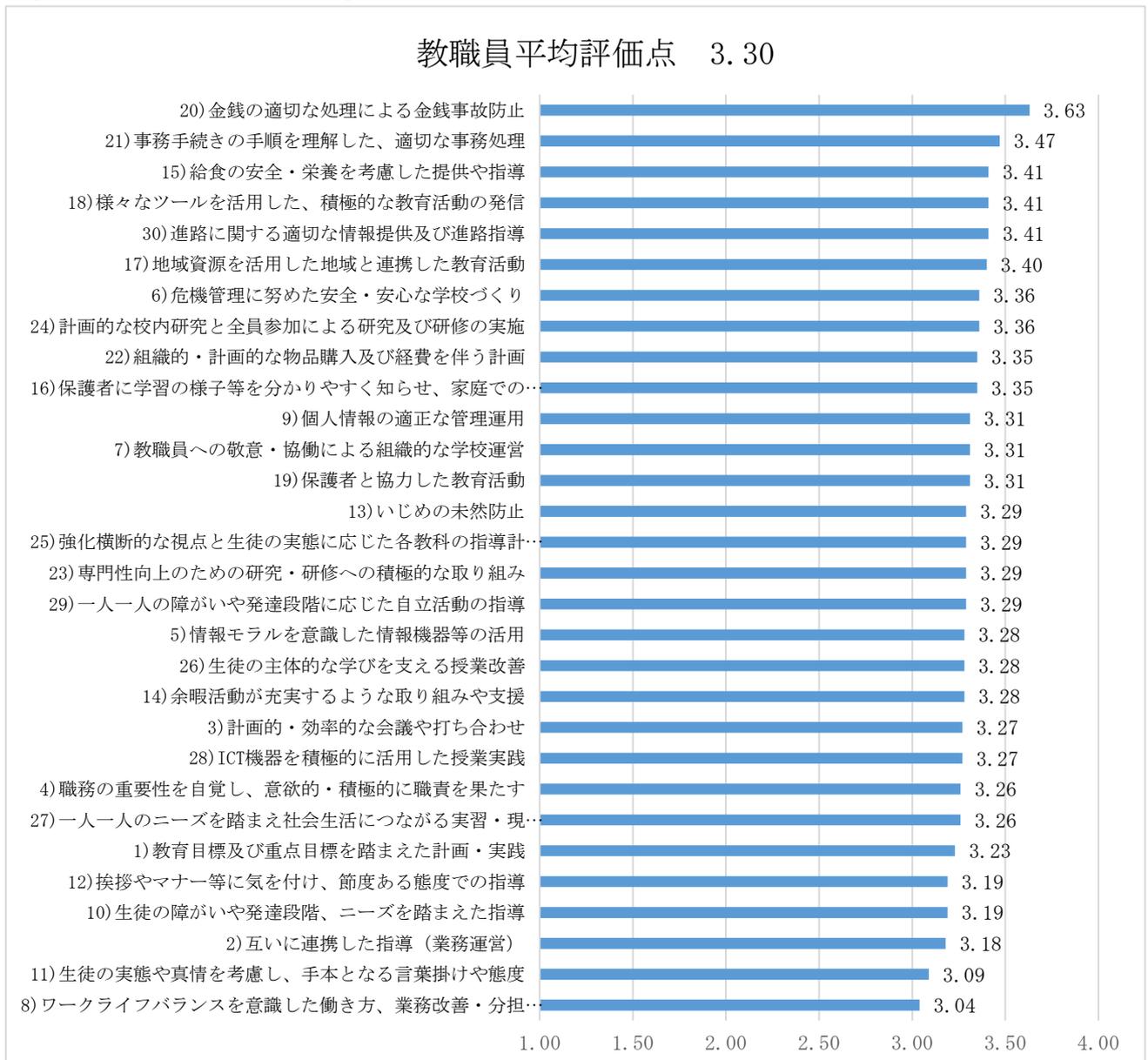
ア 教職員：令和6年度平均評価点 3.30（令和5年度平均評価点 3.22）

(ア) 評価点は次のとおりとした。

- ・評価4（十分）～4点 評価3（おおむね）～3点
- 評価2（不十分）～2点 評価1（まったく）～1点

(イ) 図1は30の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

【図1 平均評価点（教職員）】



イ 学校運営【平均評価点：3.25】

評価項目	考察及び次年度に向けて
<p>1) 学校は、教育目標・年度の重点目標を踏まえ、各業務計画に反映しながら計画の作成及び実践をしている。</p> <p>2) 学校は、学年、学科、分掌及び教務、舎務、事務部門の運営において、互いに連携を図った指導（業務運営）に努めている。</p> <p>3) 学校は、諸会議や打合せを計画的・効率的に行っている。</p> <p>4) 学校は、教職員としての職務の重要性を自覚し、日々研鑽して努めるとともに、意欲的・積極的に職責を果たそうとしている。</p> <p>5) 学校は、情報モラルを意識して情報機器等を活用している。</p> <p>6) 学校は、危機管理に努め、安全・安心な学校づくりを行っている。</p> <p>7) 学校は、本校で働く全ての教職員に敬意をもって接し、教職員の協働による組織的な学校運営に努めている。</p> <p>8) 学校は、ワークライフバランスを意識した働き方を推進し、業務改善及び業務分担の平準化に努めている。</p> <p>9) 学校は、個人情報を適正に管理運用をすることができている。</p>	<p>・令和6年度平均評価点 3.25 (令和5年度平均評価点 3.31)</p> <p>・全ての項目で評価4 (十分)、評価3 (おおよそ) の合計が90%を超える評価となっている。</p> <p>①効率的な会議運営について、議題が協議事項となるのか、連絡事項となるのか、また、職員会議に提案するのか、グループウェア等で周知するのかなどについての精選を行う。</p> <p>・安心安全な学校づくりについて、要修繕箇所について予算申請をしているが、予算措置されていない案件がある。今後も教育局に修繕の必要性を説明する。</p> <p>②ワークバランスを意識した働き方についての評価が低かった。次年度に向けて、業務改善及び業務の平準化をねらい、校務分掌の人数を調整する。また、現在の業務の中で精選できる業務や負担となっている業務を洗い出し、改善に取り組む。</p> <p>・個人情報の管理運用については、全教職員が危機意識を高め、本校のマニュアルに沿って、全校で個人情報の紛失・流出防止に努める。</p>

ウ 教育活動【平均評価点：3.24】

評価項目	考察及び次年度に向けて
<p>10) 学校は、親和的、共感的に生徒の実態を理解し、生徒の障がいや発達段階、生徒・保護者のニーズを踏まえた指導をしている。</p> <p>11) 学校は、言葉掛けや態度など、生徒の実態や心情を考慮し、望ましい手本となるように努めている。</p> <p>12) 学校は、挨拶やマナー、服装、時間などに気を付け、節度ある態度や決まりを守り指導している。</p> <p>13) 学校は、生徒の人間関係の把握をきめ細かにいき、いじめの未然防止に努めている。</p> <p>14) 学校は、生徒の余暇活動が充実するような取り組みや支援を行っている。</p> <p>15) 学校は、給食の安全・栄養を考慮した提供や、その指導が行われている。</p>	<p>・令和6年度平均評価点 3.24 (令和5年度平均評価点 3.28)</p> <p>・6項目中5項目の、評価4 (十分)、評価3 (おおよそ) の合計が90%を超える評価となっている。</p> <p>・設問11「学校は、言葉掛けや態度など、生徒の実態や心情を考慮し、望ましい手本となるように努めている。」の項目は、評価4 (十分)、評価3 (おおよそ) の合計が89.7%となっている。</p> <p>③生徒の手本となるよう努めることについて課題があった。北海道美深高等養護学校職員行動指針に沿い、TPOに合わせた服装や言葉遣い、言動など、生徒の手本となるよう個々が意識を高める。</p> <p>④魅力ある学校（寄宿舎）づくりの際、今の時代やこれからの時代に合わせた指導及び支援が重要となる。生徒のニーズを把握し、生徒主体の取り組みを推進する。</p> <p>・いじめの未然防止については、これまで同様に学校組織全体で対応する。また、研修等をとおして、いじめの未然防止についての共通理解を図る。</p>

エ 保護者や地域との連携【平均評価点：3.37】

評価項目	考察及び次年度に向けて
<p>16) 学校は、保護者に学習や生活の様子、学校事務に関することなどを分かりやすく知らせるとともに、家庭での様子の把握に努めている。</p> <p>17) 学校は、地域人材や資源を活用し、地域と連携した教育活動に取り組んでいる。</p> <p>18) 学校は、様々なツールを活用し、保護者や地域等へ向け、積極的に教育活動の情報発信を行っている。</p> <p>19) 学校は、保護者と協力しながら教育活動を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度平均評価点 3.37 (令和5年度平均評価点 3.17) 全ての項目で評価4(十分)、評価3(おおよそ)の合計が100%となっている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、ホームページをリニューアルし、積極的な情報発信に努めた。約9ヶ月で10万ほどのアクセスがあった。また、学校運営協議会より御意見をいただき、公式X(旧Twitter)も開設した。今後も様々なツールを活用して本校の教育内容を発信する。 地域と連携した教育活動推進の際、次につながるよう、個ではなく組織としての取り組みを行い、現在は点の取り組みを、今後、線や面となるよう、全校で推進する。 今後も学校運営協議会を活用し、地域資源を生かした教育活動の充実を推進する。

オ 会計・事務【平均評価点 3.48】

評価項目	考察及び次年度に向けて
<p>20) 学校は、学校徴収金の管理や事務処理について、会計事務処理要領に則って適切に処理し、金銭事故防止に努めている。</p> <p>21) 学校は、事務手続きの手順を理解し、適切に事務処理を行っている。</p> <p>22) 学校は、物品の購入や経費を伴う計画等を、組織的・計画的に行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度平均評価点 3.48 (令和5年度平均評価点 3.37) 全ての項目で評価4(十分)、評価3(おおよそ)の合計が98%を超える評価となっている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 金銭事故防止と適切な事務処理に関する項目の評価点が高かった。次年度も金銭事故防止への意識を高めて適正な処理に努める。 物品の購入の際は、業務の効率化や適正な予算執行の観点から、急な購入ではなく、できるだけ計画的な物品購入に努める。

カ 研究・研修【令和6年度平均評価点 3.33】

評価項目	考察及び次年度に向けて
<p>23) 学校は、専門性向上のため研究・研修に積極的に取り組んでいる。</p> <p>24) 学校は、校内研究に計画的に取り組み、全員参加の研究及び研修を実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度平均評価点 3.33 (令和5年度平均評価点 3.16) 全ての項目で評価4(十分)、評価3(おおよそ)の合計が98%を超える評価となっている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 教職員は、その職責を遂行するために、絶えず研修に努める必要がある。そのため、校内及び校外での研修に積極的に参加するよう、一人一人の研修意識の向上が必要である。個々が授業力の向上や、専門性の向上などの意欲をもち、研修をとおしてスキルアップをはかるようにする。 校内研究日は主に金曜日に実施しているが、参加率向上を考え、他の曜日での実施も検討する。

キ 教育課程・学習指導・進路指導【平均評価点 3.41】

評価項目	考察及び次年度に向けて
25) 学校は、学習指導要領に沿い、教科横断的な視点を持ち、生徒の実態に応じて各教科の指導計画を作成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度平均評価点 3.41 (令和5年度平均評価点 3.13) ・全ての項目で評価4(十分)、評価3(おおよそ)の合計が95%を超える評価となっている。
26) 学校は、生徒の主体的な学びを支える授業改善に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態は、年度ごとに変化する。指導計画作成の際は、
27) 学校は、実習・現場実習等において、一人一人のニーズを踏まえ、社会生活につながるように工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 前年度を参考にしながら、適切なアセスメントにより、実態にあった計画を作成する。
28) 学校は、ICT機器を積極的に活用しながら授業を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践の際、ICTを生徒の目標達成の有効的な手立てとして、効果的に使用する。ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。
29) 学校は、自立活動の指導を個別の指導計画の基、一人一人の障がいや発達の程度に応じて適切に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業改善に全校で取り組み、生徒の学びを深める。
30) 学校は、生徒の卒業後の生活を見据え、懇談会や進路だよりを通して、進路に関する適切な情報提供及び進路指導を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習の実習先検討の際は、生徒及び保護者のニーズ、生徒の実態、学校及び寄宿舎での様子等を関係者で総合的に判断して決定する。

※考察及び次年度に向けての①～④の番号が付いた項目は、次年度の重点事項とする。

2 保護者評価

(1) 実施日

令和6年11月9日～令和6年11月25日

(2) 対象者

保護者 71 家庭 (提出 51 名 / 提出率 71.8%)

(3) 結果

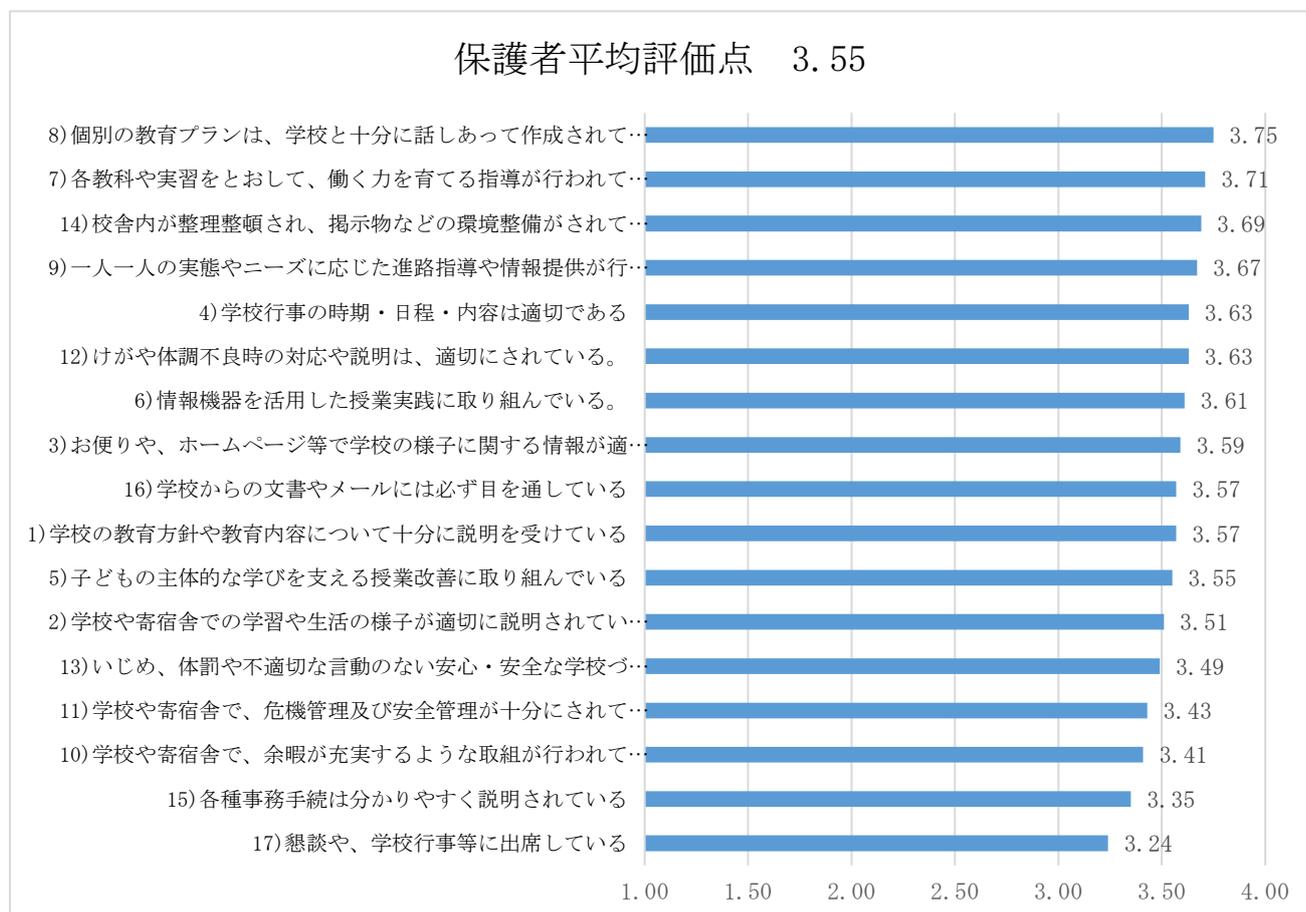
ア 保護者：令和6年度平均評価点 3.55 (令和5年度平均評価点 3.57)

(ア) 評価点は次のとおりとした。

- ・評価4 (できている) ～4点
- ・評価3 (おおむね) ～3点
- ・評価2 (不十分) ～2点
- ・評価1 (まったく) ～1点

(イ) 図2は17の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

【図2 平均評価点 (保護者)】



イ 各項目の平均評価点、分析及び次年度に向けて

評価項目	平均評価点
◆学校運営	
1) 学校の教育方針や教育内容について十分に説明を受けている。	令和6年度 3.58 (令和5年度 3.64)
4) 学校行事の時期・日程・内容は適切である。	
11) 学校や寄宿舎で、危機管理及び安全管理が十分にされている。	
12) 校舎内が整理整頓され、掲示物などの環境整備がされている。	

<p>◆保護者と学校の連携</p> <p>2) 学校や寄宿舎での学習や生活の様子が適切に説明されている。</p> <p>3) お便りや、ホームページ等で学校の様子に関する情報が適切に提供されている。</p> <p>12) けがや体調不良時の対応や説明は、適切にされている。</p> <p>16) 学校からの文書やメールには必ず目を通してている。</p>	<p>令和6年度 3.57 (令和5年度 3.60)</p>
<p>◆教育課程</p> <p>5) 子どもの主体的な学びを支える授業改善に取り組んでいる。</p> <p>6) 情報機器を活用した授業実践に取り組んでいる。</p> <p>7) 各教科や実習をとおして、働く力を育てる指導が行われている。</p> <p>8) 個別の教育プランは、学校と十分に話しあって作成されている。</p> <p>9) 一人一人の実態やニーズに応じた進路指導や情報提供が行われている。</p> <p>17) 懇談や、学校行事等に出席している。</p>	<p>令和6年度 3.58 (令和5年度 3.56)</p>
<p>◆余暇の充実</p> <p>10) 学校や寄宿舎で、余暇が充実するような取組が行われている。</p>	<p>令和6年度 3.41 (令和5年度 3.37)</p>
<p>◆教育活動</p> <p>13) いじめ、体罰や不適切な言動のない安心・安全な学校づくりに努めている。</p>	<p>令和6年度 3.49 (令和5年度 3.53)</p>
<p>◆会計・事務</p> <p>15) 各種事務手続は分かりやすく説明されている。</p>	<p>令和6年度 3.35 (令和5年度 3.41)</p>
<p>【分析及び次年度に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全17項目「評価4 できている」「評価3 おおむね」の割合が、16項目で90%以上と高い評価をいただいた。 ・設問17「懇談や、学校行事等に出席している」の「評価4 できている」「評価3 おおむね」の割合は、88.3%だった。 ・平均評価点が3.55と、昨年度の3.57と比べ若干数値は下がったが、昨年度同様、高い数値となった。本校の教育活動の推進について、一定の評価をいただいたのではないかと推測される。 ・最も評価点が高かった項目は、「個別の教育プランは、学校と十分に話しあって作成されている。」だった。昨年度に続いて最も評価点が高かった。また、2番目に評価点が高かったのは、「各教科や実習をとおして、働く力を育てる指導が行われている。」だった。教育課程に関する項目が上位となったのは、個別の指導計画を根拠とした学習や、地域と連携した学習、生徒主体の学習等が評価されたのではないかと推測される。 <p>⑤昨年度に続き、「懇談や、学校行事等に出席している。」が低い評価点となった。本校は生徒の居住地が広範囲となっているため、保護者が懇談等に参加しやすいよう、オンライン懇談やオンラインも活用した研修会等の実施を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者評価は、一昨年度からGoogle フォームを使用しWeb上で回答していただいている。提出率は、一昨年度が45.8%、昨年度が62.0%で、今年度は71.8%と上昇している。次年度以降の提出率さらなる上昇をねらい、積極的にICTを活用した保護者との情報提供や情報共有を推進する。 	

※分析及び次年度に向けての⑤の番号が付いた項目は、次年度の重点事項とする。

3 添付資料

- (1) 【参考資料1】「令和6年度 学校評価項目ごと集計（教職員）」
- (2) 【参考資料2】「令和6年度 学校評価項目ごと集計（保護者）」
- (3) 【参考資料3】「令和6年度 学校評価項目ごと集計（生徒）」

4 生徒アンケート

(1) 対象者

生徒 76名 (提出 70名 / 提出率 93%)

(2) 結果及び考察

ア 自分のことを分かってくれる先生がいる。【はい 74.3% / いいえ 4.3% / 分からない 21.4%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> ◆「はい」の割合が、昨年度より15%減少 ・3学年は(昨年度2学年次と比較して)8%減少 ・2学年は(昨年度1学年次と比較して)12%減少 ・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)7%減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はい」の割合が、全体的に減少している。 ・昨年度の比べると「分からない」の割合が全体的に増加している。 ・学年、学科、寄宿等において、生徒の適切なアセスメントに努め、障がい実態合わせた指導に取り組む。

イ 先生はどの生徒にも公平に接してくれる。【はい 61.4% / いいえ 10% / 28.6%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> ◆「はい」の割合は全体では昨年度と変わらない。 ・3学年は(昨年度2学年次と比較して)19%増加 ・2学年は(昨年度1学年次と比較して)16%減少 ・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)2%減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べると「分からない」の割合が減って「いいえ」の割合が増加している。公平な先生もいれば、不公平だと感じる先生もいるということや、生徒の特性によって配慮していることが不公平と感じている生徒がいる可能性もある。生徒面談をとおして、指導方針等の共通理解を図る。

ウ 悩んだり困ったとき誰に相談しますか。【相談することができる 98.2% / 誰にも相談しない 1.8%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> ◆「相談できる人がいる」の割合が、98.4%だった。 ・3学年とも98%以上で、昨年度とほぼ変わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が、相談することができる人がいるという結果だった。 ・誰にも相談をしないという生徒が数名いた。これらの生徒については、日頃から職員から声を掛けたり、様子を観察を行ったりして丁寧に対応する。

エ 学校に行くのが楽しい。【はい 54.3% / いいえ 18.6% / 分からない 27.1%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> ◆「はい」の割合が、全体で(昨年度と比較して)17%減少 ・3学年は(昨年度2学年次と比較して)5%減少 ・2学年は(昨年度1学年次と比較して)27%減少 ・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)19%減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はい」の割合は、昨年度と比べて大幅に減少している。 ・「いいえ」「分からない」の割合が昨年度より増加している。 ・「楽しい」と感じている生徒が大幅に減少している。魅力ある学校づくりに努め、生徒が学校に行くのが楽しいと思えるような学校となるよう授業や行事、余暇活動等の充実を図る。

オ 先生はわかりやすい授業をしてくれる。【はい 80% / いいえ 5.7% / 分からない 14.3%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> ◆「はい」の割合が、全体で(昨年度と比較して)8%減少 ・3学年は(昨年度2学年次と比較して)変わらない ・2学年は(昨年度1学年次と比較して)19%減少 ・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)12%減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「はい」の割合が減少傾向にある。 ・校内研究等の実践を生かし、生徒が主体的に学習に取り組み、生徒個々が「分かった、できた、やってみよう」と思うことができる授業改善に取り組む。

カ 寄宿舎の生活が楽しい。【はい 61.3% / いいえ 22.6% / 分からない 16.1%】

結果	考察
<ul style="list-style-type: none"> ◆「はい」の割合が(昨年度と比較して)3%減少 ・3学年は(昨年度2学年次と比較して)5%増加 ・2学年は(昨年度1学年次と比較して)3%減少 ・1学年は(昨年度入学1学年次と比較して)14%増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はい」の割合は、全体では昨年度とあまり変わらない。 ・昨年度と比べると「分からない」の割合が増加している。 ・日々の生活や余暇の充実に取り組み、魅力ある寄宿舎づくりを図る。